

2016年度 決算説明会

DOWAホールディングス株式会社

2017年5月17日

2016年度決算の概要

■ 連結損益計算書

単位：億円

	2015年度 実績			2016年度 実績			比較増減					
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期		下期		通期	
売上高	2,082	1,983	4,065	1,847	2,257	4,105	△ 235	△ 11%	274	14%	39	1%
営業利益	202	148	350	133	206	339	△ 69	△ 34%	58	39%	△ 10	△ 3%
経常利益	206	144	350	135	229	365	△ 70	△ 34%	84	59%	14	4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	120	97	218	98	162	261	△ 21	△ 18%	65	67%	43	20%

- ✓ 下期に入り亜鉛など金属価格が上昇し、主力製品も堅調に推移したことから、経常利益は前年度比14億円の増益、当期純利益は特別損失の減少により同43億円の増益となった。

為替相場、金属価格

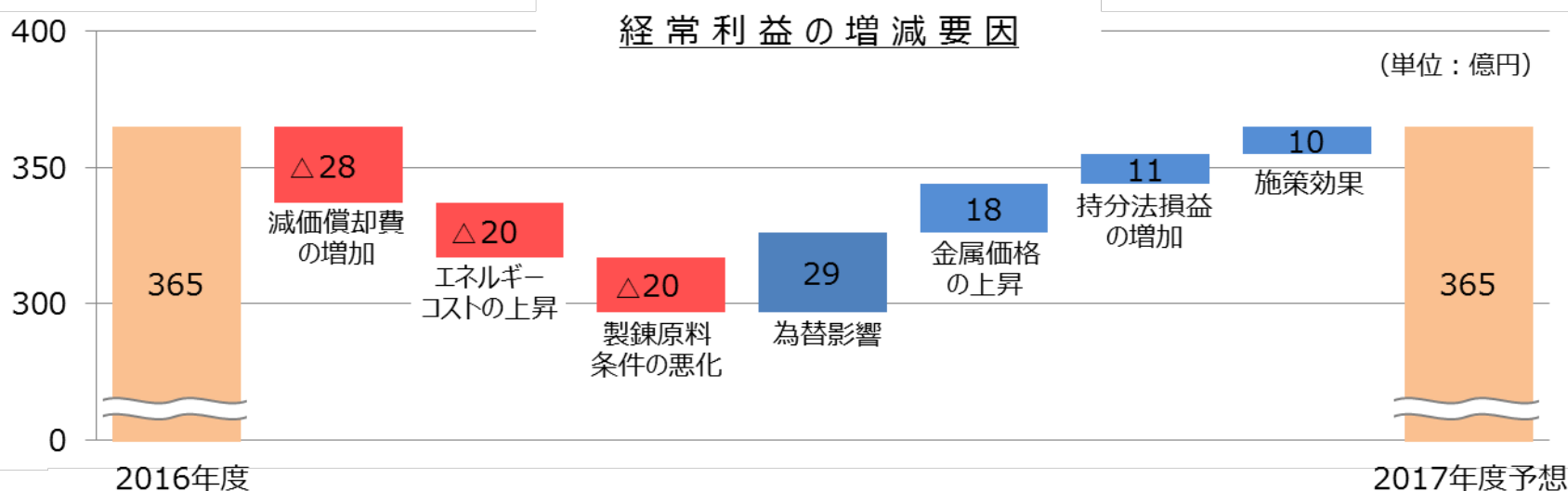
	2015年度 平均			2016年度 平均		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
為替：(¥/\$)	121.8	118.5	120.1	105.3	111.5	108.4
銅：(\$/t)	5,653	4,778	5,215	4,752	5,557	5,154
亜鉛：(\$/t)	2,019	1,643	1,831	2,084	2,650	2,367
インジウム：(\$/kg)	369	235	302	222	192	207

2017年度 連結業績の見通し

単位：億円

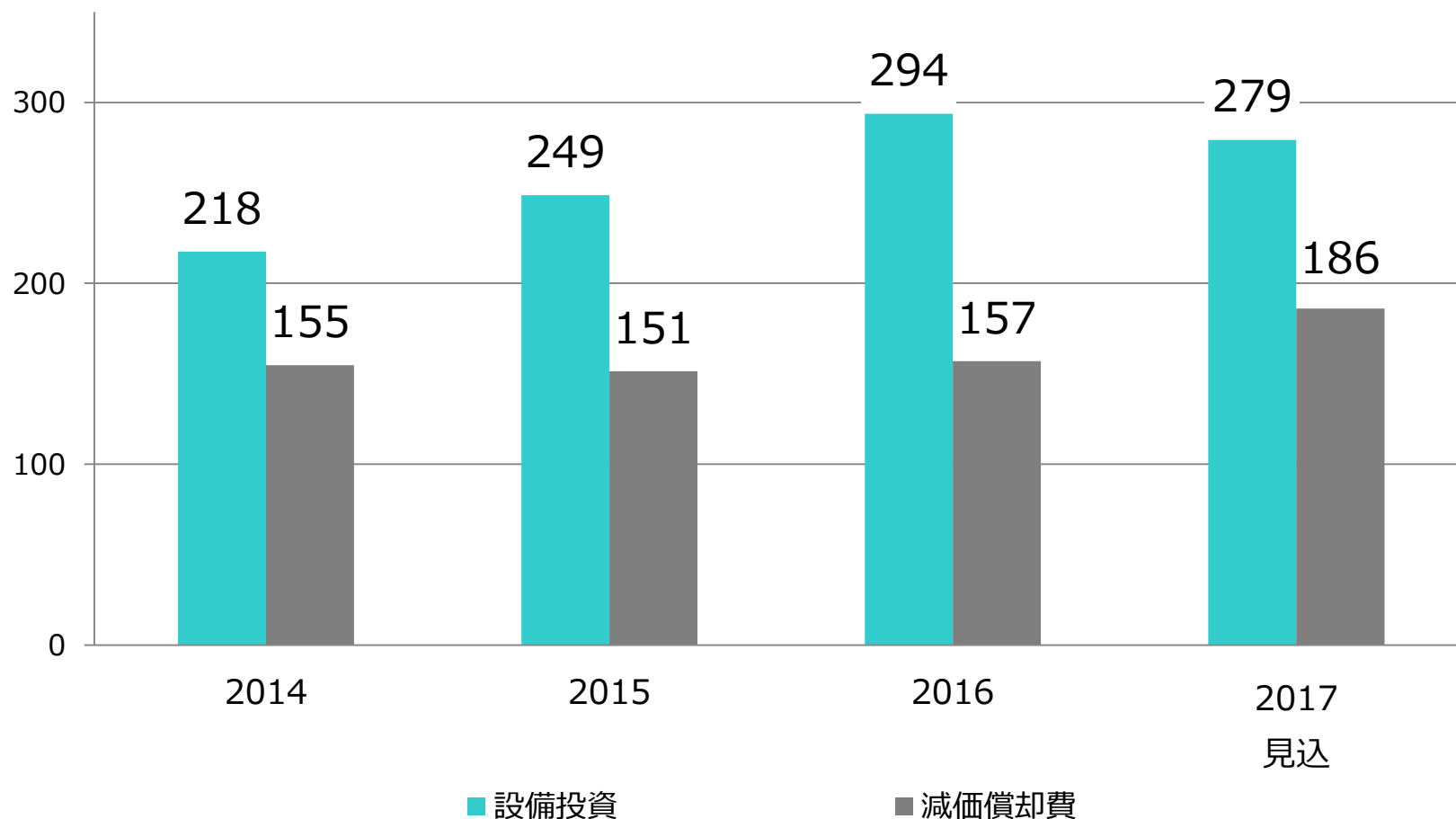
	2016年度 実績	2017年度 業績予想	比較増減
売上高	4,105	4,340	234
営業利益	339	340	-
経常利益	365	365	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	261	260	△ 1

- ✓ 成長投資による減価償却費の増加など減益要因はあるものの、為替相場・金属価格の好転や施策効果の発揮などにより、前年度並みの利益を計画。



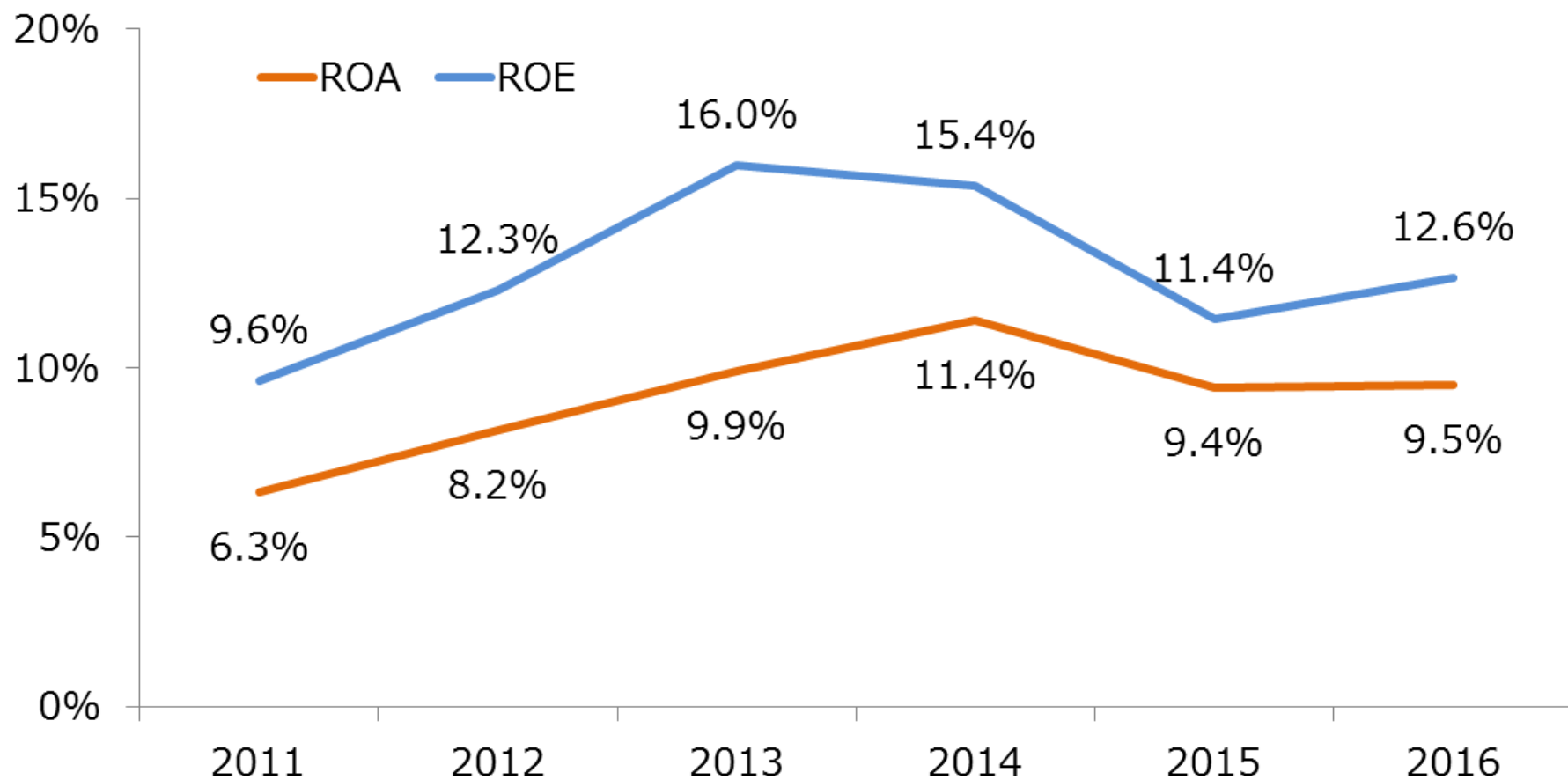
設備投資・減価償却費

(単位：億円)



✓ 中期計画における成長投資は着実に実行、2017年度も継続する

総資産経常利益率(ROA)・自己資本当期純利益率(ROE)



✓ 総資産額、純資産額ともに増加するなかで、ROA・ROEは高水準を維持

※算出式

ROA : 経常利益 × 100 / (期首総資産 + 期末総資産) ÷ 2、ROE : 当期純利益 × 100 / (期首自己資本 + 期末自己資本) ÷ 2

各事業の2017年度概要と 主要施策の進捗状況

環境・リサイクル① 2017年度の概要

◆市場動向

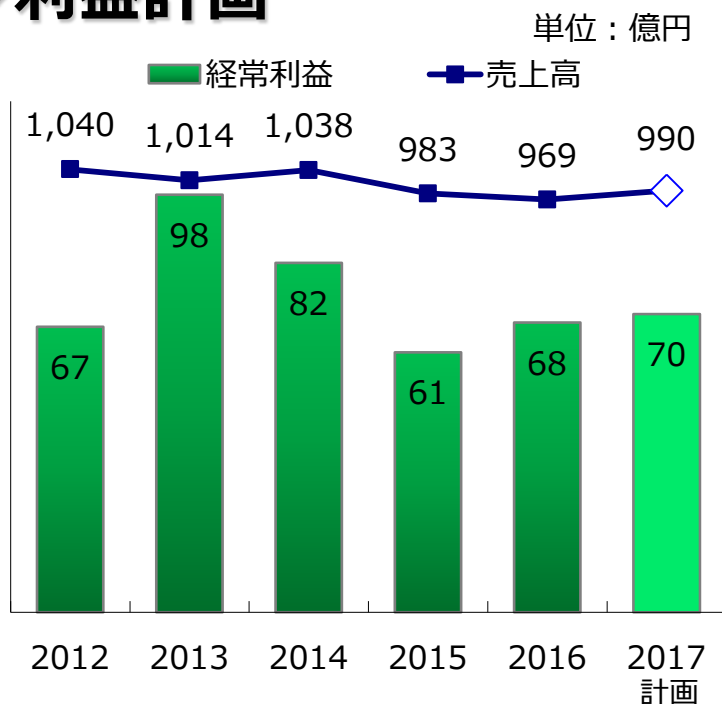
- ・国内の廃棄物発生量は横ばい
- ・土壌浄化はインフラ関連投資が緩やかに増加
- ・東南アジアの廃棄物の発生量は増加が続く

主要製品の動向

(2015年度 = 100)

	2015	2016	2017
国内廃棄物中間処理量	100	98	100
リサイクル原料集荷量(小坂)	100	106	103
東南アジア廃棄物処理額	100	107	112

◆利益計画



【2017年度利益のポイント】

- ・東南アジアの廃棄物集荷量は堅調
- ・低濃度PCB廃棄物は増処理、処理単価は若干下落

環境・リサイクル② 主要施策の進捗状況

◆ 東南アジアの廃棄物処理事業の拡大

最終処分

インドネシア

- ・既存処分場

廃棄物の集荷量は着実に拡大

- ・新規処分場計画（東ジャワ）

2017年度に環境アセス完了予定、着工へ

タイ

- ・既存処分場の拡張

2017年度に環境アセス完了予定

- ・現地企業との協業

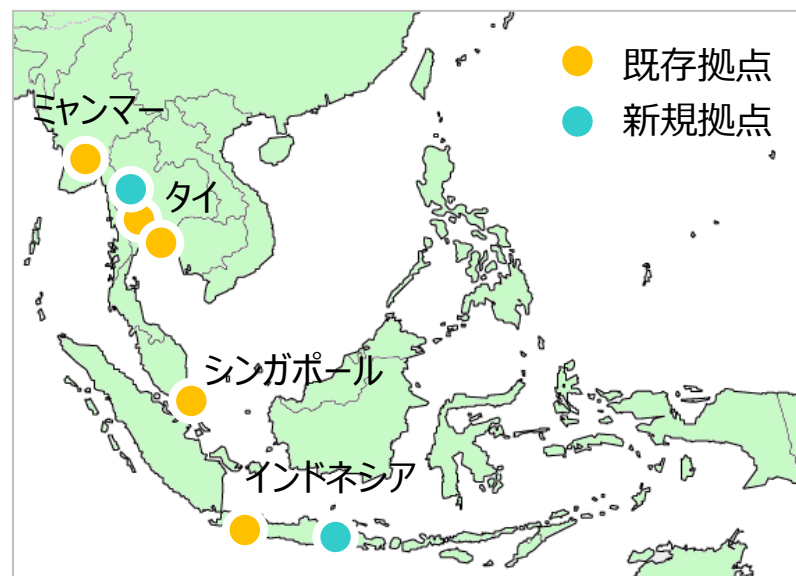
有害廃棄物処分場の新設を検討中

中間処理

シンガポール

- ・5月に新炉稼働開始を予定

→ 成長が見込まれる化学・医薬メーカーからの有害廃棄物の処理を拡大



新規拠点の開設、既存拠点の拡張・増強を推進

環境・リサイクル③ 主要施策の進捗状況

◆自然由来汚染土壌処理の事業化推進

乾式磁力選別処理の特長

水を使わない処理
コンパクトな浄化施設

発生場所での処理や
浄化土の再利用が可能

2017年度は小規模の
案件で処理実績を重ねる

今後は、大型インフラ建設より発生する大量の建設残土がターゲット

国内3か所で浄化施設の建設を計画

◆国内の廃棄物処理事業の拡大

低濃度PCB

秋田：バッチ式焼却炉の操業開始（2016）

岡山：事前解体能力を強化し、大型機器を増処理（2017）

→ 複数拠点で様々な形状の廃電気機器の処理に対応

低濃度PCBを含む廃電気機器



一般廃棄物：灰溶融、再資源化事業の拡大(2017下～いわき拠点立上げ)

製錬① 2017年度の概要

◆市場動向

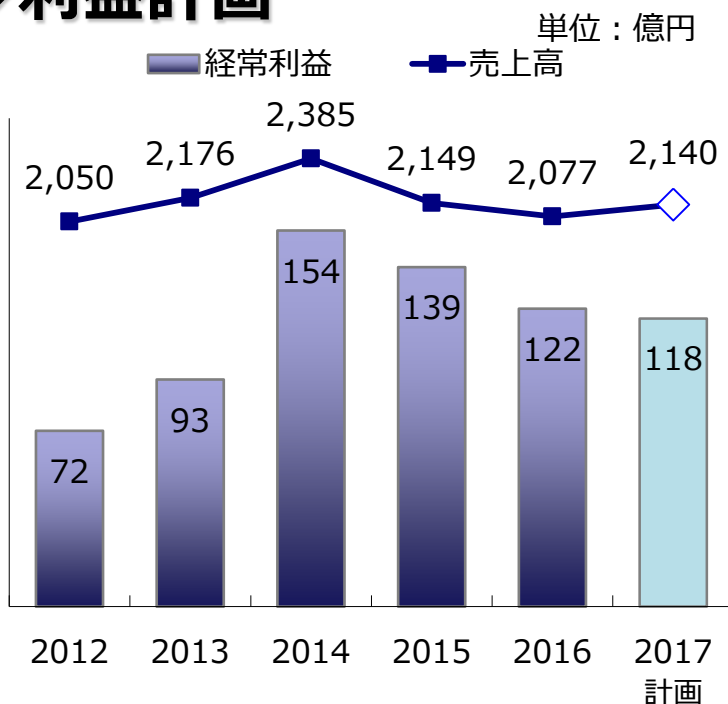
- ・金属価格は総じて堅調、為替相場は不透明
- ・国内の地金需要は横ばい
- ・白金族原料は世界的に発生増も、集荷競争は激化

主要製品の動向

(2015年度 = 100)

	2015	2016	2017
銅生産量 (小坂・小名浜)	100	80	65
亜鉛生産量 (秋田)	100	97	99

◆利益計画



【2017年度利益のポイント】

- ・金属価格は全般的にプラス影響も、亜鉛の原料条件は悪化
- ・白金族リサイクル設備の増強や焙焼炉新設による減価償却費増、電力価格も上昇

製錬② 主要施策の進捗状況

◆ 鉱山プロジェクトの推進：亜鉛自山鉱比率50%に向けて ロス・ガトス 亜鉛・銀・鉛プロジェクト（PJ）：メキシコ・チワワ州

2014年12月 PJへ参画、フィージビリティスタディ（FS）を開始

- ・200本超の追加試錐により、埋蔵鉱量の追加と確度向上
- ・30%のPJ権益と亜鉛精鉱全量引取権を取得

2017年1月 FS完成



2017年 許認可取得とファイナンススキーム構築 → 建設着手へ
2019~2020年頃 操業開始予定

パルマー 亜鉛・銅PJ：アメリカ・アラスカ州

2011年にPJ参画、探鉱活動を継続中

- ・49%のPJ権益と亜鉛精鉱全量引取権を取得



ロスガトスPJの現場

製錬③ 主要施策の進捗状況

◆自動車廃触媒からの白金族リサイクルの拡大

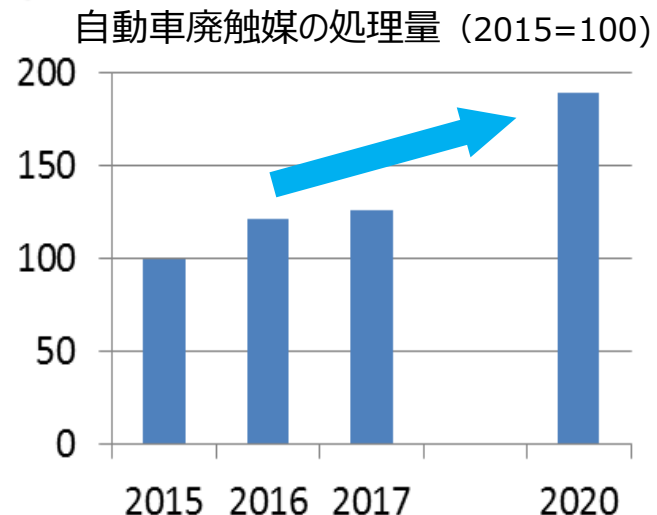
原料集荷

北米：集荷会社を買収し、集荷ネットワーク拡大

欧州：チェコ工場を起点に欧州内外で集荷増

処理能力

2016年より新炉稼働開始 → 段階的に能力増強し、2020年には4割増へ



◆製錬コンビナートの基盤強化

小坂製錬・秋田製錬の連携を強化し、多様な原料からの副産金属回収を拡充

小坂製錬：スズ・アンチモンの回収拡大による収益力・原料対応力の強化

秋田製錬：焙焼炉など重要設備の新設・更新、亜鉛リサイクル原料の処理拡大

電子材料① 2017年度の概要

◆市場動向

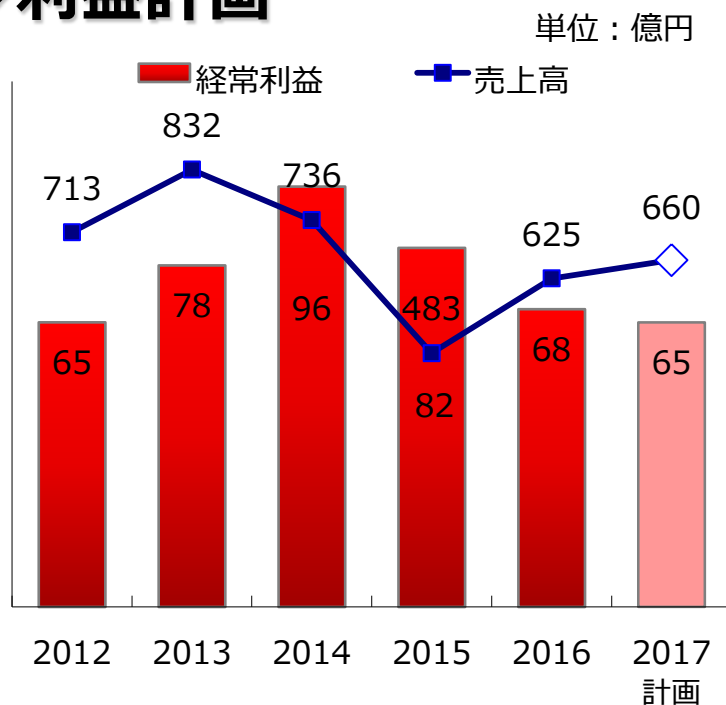
- ・センサ向けLEDは、スマートフォン向け需要横ばい、ヘルスケア機器向けに用途拡大
- ・太陽光パネル向け銀粉が堅調に増加
- ・データテープ向け磁性粉の需要は安定的

主要製品の動向

(2015年度 = 100)

	2015	2016	2017
LED販売量	100	59	62
銀粉販売量	100	121	133

◆利益計画



【2017年度利益のポイント】

- ・市場拡大の継続により、銀粉は増販
- ・銀粉などの増産投資により減価償却費増
- ・将来に向けた研究開発費用を増額

電子材料② 主要施策の進捗状況

◆ 銀粉：供給能力と品質で高シェアを維持

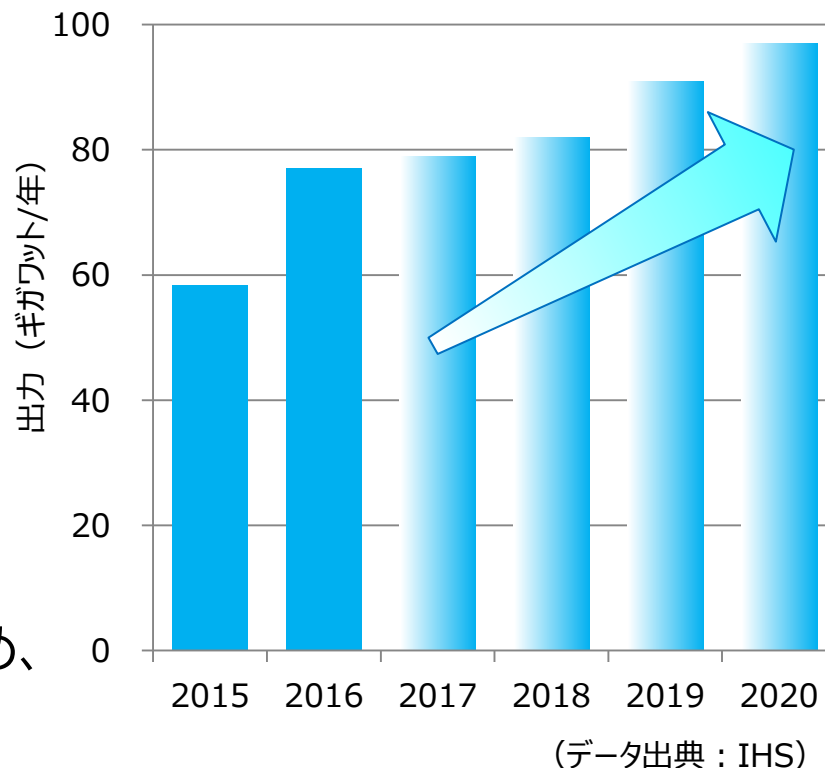
供給能力の拡大

今年度以降も、市場は拡大を継続
→ 需要に応じた増産投資を実施

次世代型太陽光パネルへの対応

今後は発電効率の高い次世代型の比率増
銀粉への要求特性も更に高まる
→ 技術的な強みを活かした特性向上を進め、
次世代型向けの需要を取り込む

世界の太陽光パネル設置 導入量予測



拡大の続く太陽光パネル市場において高シェアを維持

電子材料③ 主要施策の進捗状況

◆新規製品開発

深紫外LED

- ・医療機器向けへの採用が拡大

深紫外LEDの出力を最適化
長寿命化による信頼性の向上



サンプルワークを拡大

水銀ランプの代替光源として期待、さらなる用途展開を加速

磁性材料の応用

- ・自動車や電子機器は、1台あたりの電子部品の搭載数が増加
- ・検知精度アップや誤作動防止のため、電磁波ノイズ対策が重要に



電磁波の吸収特性に優れた磁性材料ニーズの高まり

DOWAの粉体技術を活用し、新規製品の開発を推進



深紫外LED



金属加工① 2017年度の概要

◆市場動向

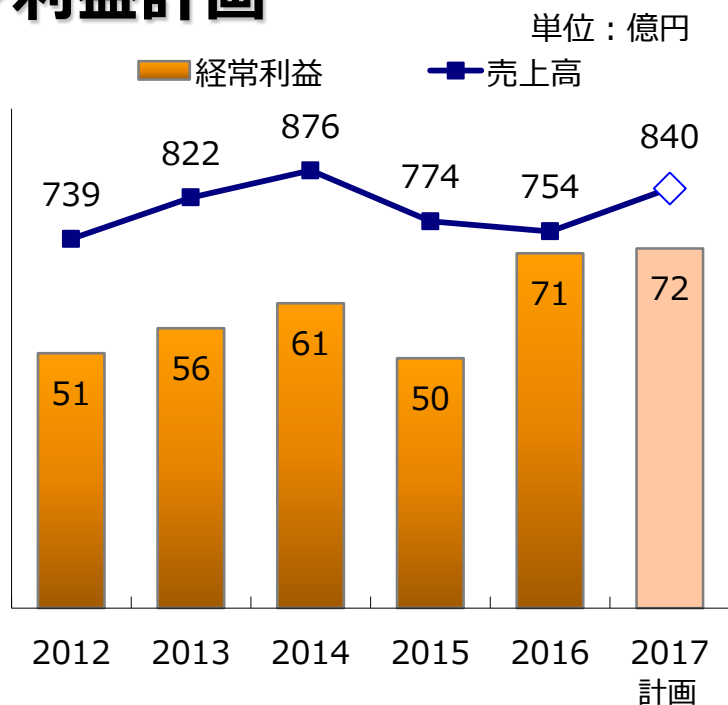
- ・伸銅品：自動車向け、スマートフォンなどの情報通信機器向けともに需要堅調
- ・めっき：自動車の電装化により需要は増加
- ・回路基板：産業機械向けが回復基調

主要製品の動向

(2015年度 = 100)

	2015	2016	2017
伸銅品販売量 (自動車向け)	100	105	108
伸銅品販売量 (情報通信機器向け)	100	106	120

◆利益計画



【2017年度利益のポイント】

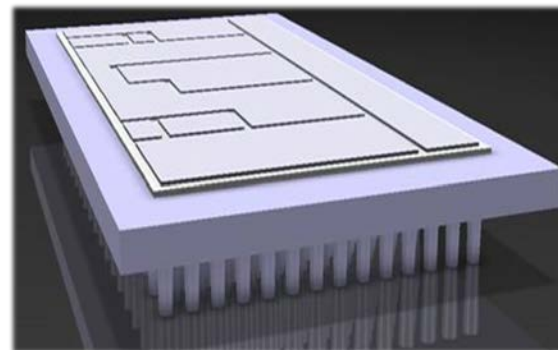
- ・スマートフォン向けを中心とした伸銅品の拡販
- ・伸銅品の増産投資による減価償却費増
- ・エネルギー価格の上昇による費用増

金属加工② 主要施策の進捗状況

◆自動車向け拡販

電気自動車の増加 → 高耐熱・高導電ニーズの高まり

- ・高圧端子向け高特性銅合金、新規めっきの開発、拡販
- ・インバーター向け回路基板の増産投資（2019～増産）



車載インバーター向け回路基板

車の電装化 → コネクタ・スイッチの搭載数増加

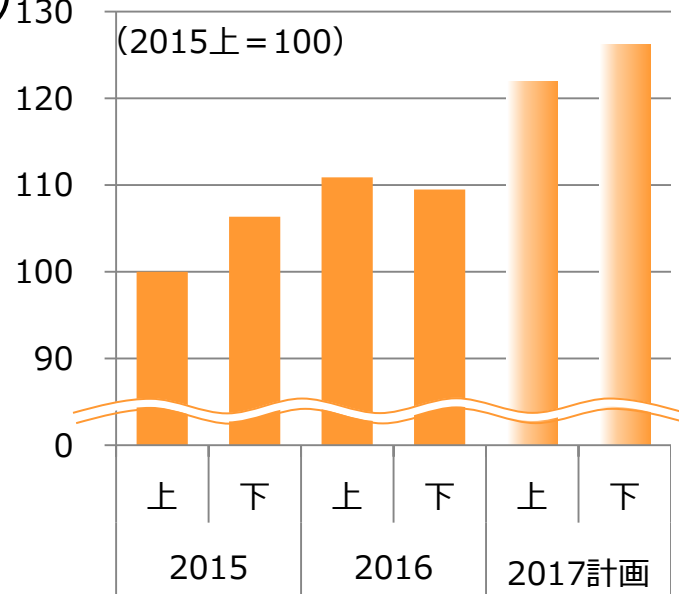
- ・ワイヤーハーネス向け新規めっきの量産化（2017下）
- ・貴金属スポットめっきの生産性向上、拡販

◆スマートフォン向け拡販

次世代通信への移行、高速充電などの高機能化

- ・増加する部品需要を捉えた高強度銅合金の拡販

スマートフォン向け銅合金の販売量推移



金属加工③ 主要施策の進捗状況

◆アジアでの事業拡大

現地での加工強化・供給能力拡大 → アジアで伸長する需要を取り込む

上海拠点

様々な製品仕様に対応可能な切断・めっき加工や
短納期を強みに自動車・スマートフォン向け拡販

台湾拠点

現地伸銅メーカーと提携し、プレス加工品をアジア市場で拡販

タイ拠点

貴金属めっき・プレス加工は、2016度に増産投資を実施・立ち上げ中
→ 一貫生産を強みに自動車部品メーカーからの受託を拡大



熱処理① 2017年度の概況

◆市場動向

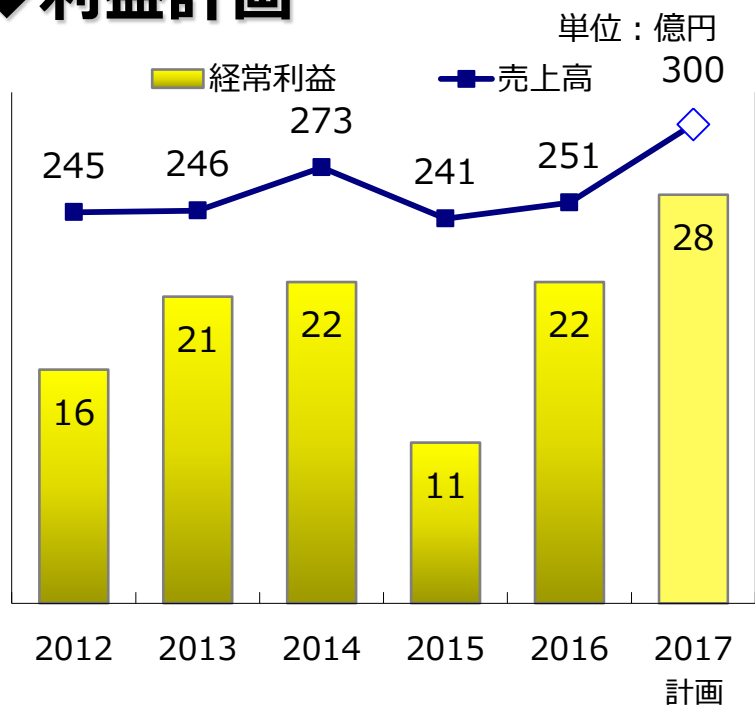
- ・自動車生産：国内は微増、海外は中国やインド、インドネシアを中心に需要拡大
- ・建設機械：国内、輸出向けともに底打ち

主要製品の動向

(2015年度 = 100)

	2015	2016	2017
熱処理加工 売上高	100	109	129
工業炉売上高	100	97	113

◆利益計画



【2017年度利益のポイント】

- ・国内外で堅調な自動車向け需要の取り込み、熱処理加工、工業炉ともに増収
- ・国内外での増産投資により減価償却費増

熱処理② 主要施策の進捗状況

◆海外事業の拡充

インド … 自動車生産は内需・輸出向けともに好調

熱処理加工の新工場を建設中

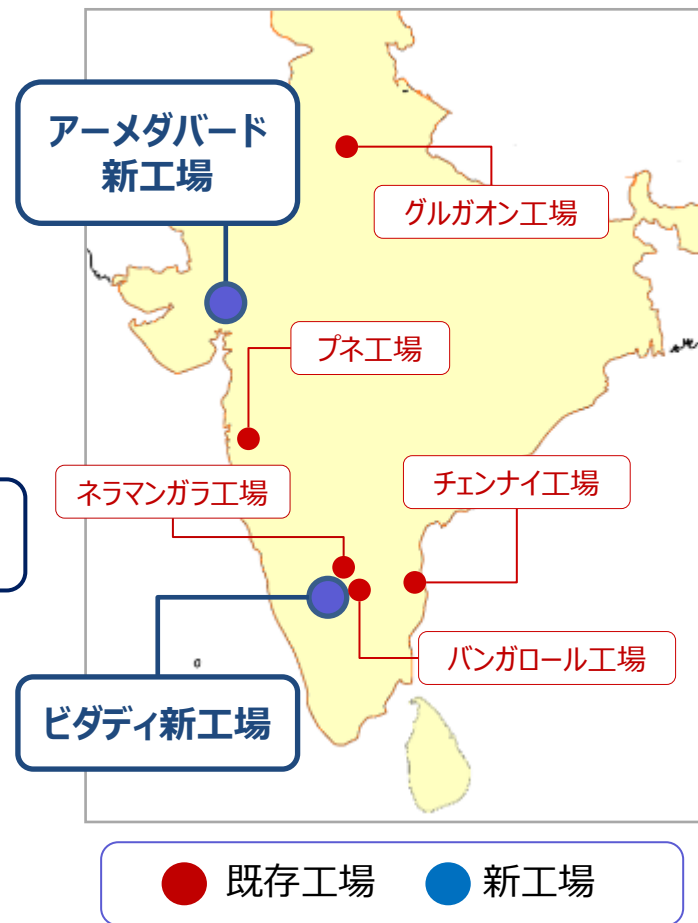
- ・アーメダバード：2017.2Q～操業開始
- ・ビダディ：2018年度～操業開始

熱処理加工 全7拠点とし、インドでの事業を拡大

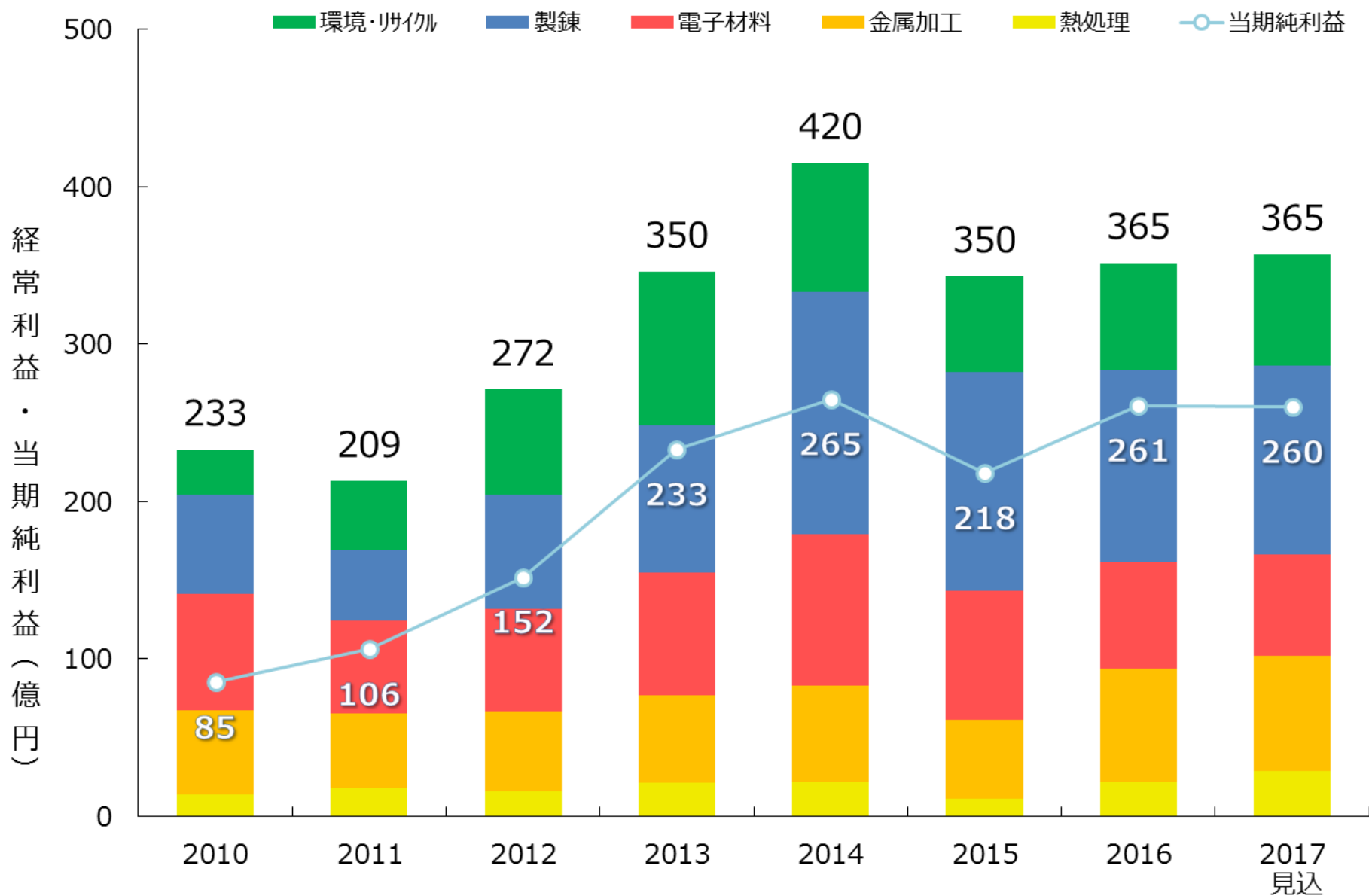
中国・東南アジア

堅調な需要に対応し増処理、処理メニューを拡充

現地で増加する自動車向け需要を取り込む



経常利益・当期純利益の推移



DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。